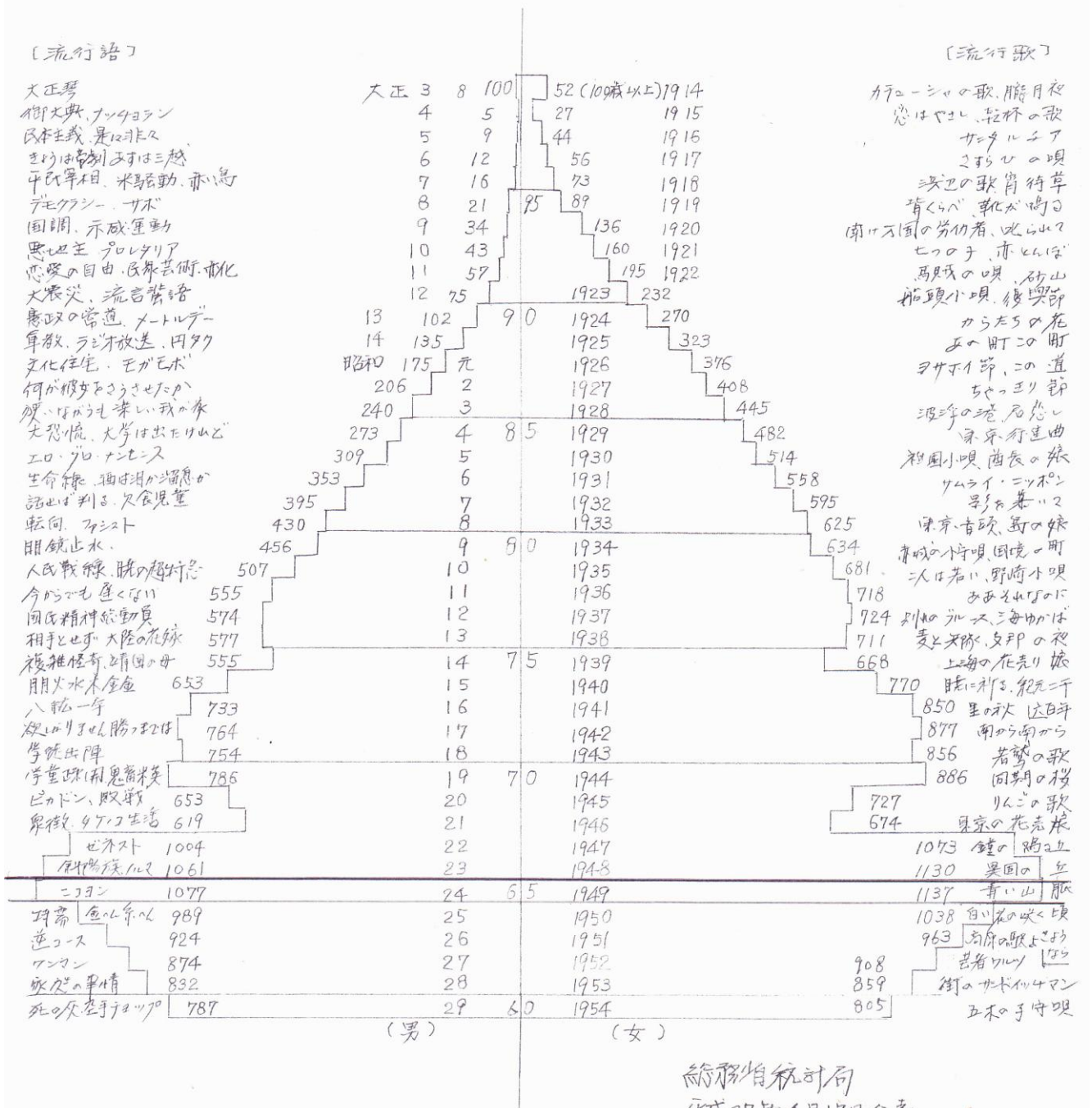


65歳以上の年齢別・男女別人口表 平成26年10月1日現在 付・流行語・流行歌

2015.4.24 H

年齢別：男女別人口 平成26年10月1日現在 (単位 1000人)



総務省統計局  
平成27年4月17日公表

制作 「月刊丈風」 2015・4

65歳以上3300万人の年齢別・男女別人口の姿です。ご自分の生年に印をつけてみてください。思いのほか“若い”ことに気づかれることと思います。65歳～75歳は史上に新たな「日本高齢社会」を創出する現役です。75歳～85歳は円熟した「高齢社会」を形成する主役です。90歳からが優游自寧の余生。90歳台の男性は数は少ないですが、戦中を生き抜き、戦後は苦難の中で企業戦士として働いた頑強で“不死身”の大正人です。国際的に成功モデル例となる「日本高齢社会」の達成はこれからです。(堀内 記)

## 65歳以上人口が3300万人、割合は26.0%に

### 人口推計 平成26年10月1日現在

総務省統計局 平成27年4月17日公表

#### 総人口は21万5千人の減少、日本人人口は減少幅が拡大

総人口は1億2708万3千人で、前年に比べ21万5千人(0.17%)の減少と減少幅は縮小したものの、4年連続で大きく減少しています。日本人人口は1億2543万1千人で、前年に比べ27万3千人(0.22%)の減少と減少幅は拡大しています。

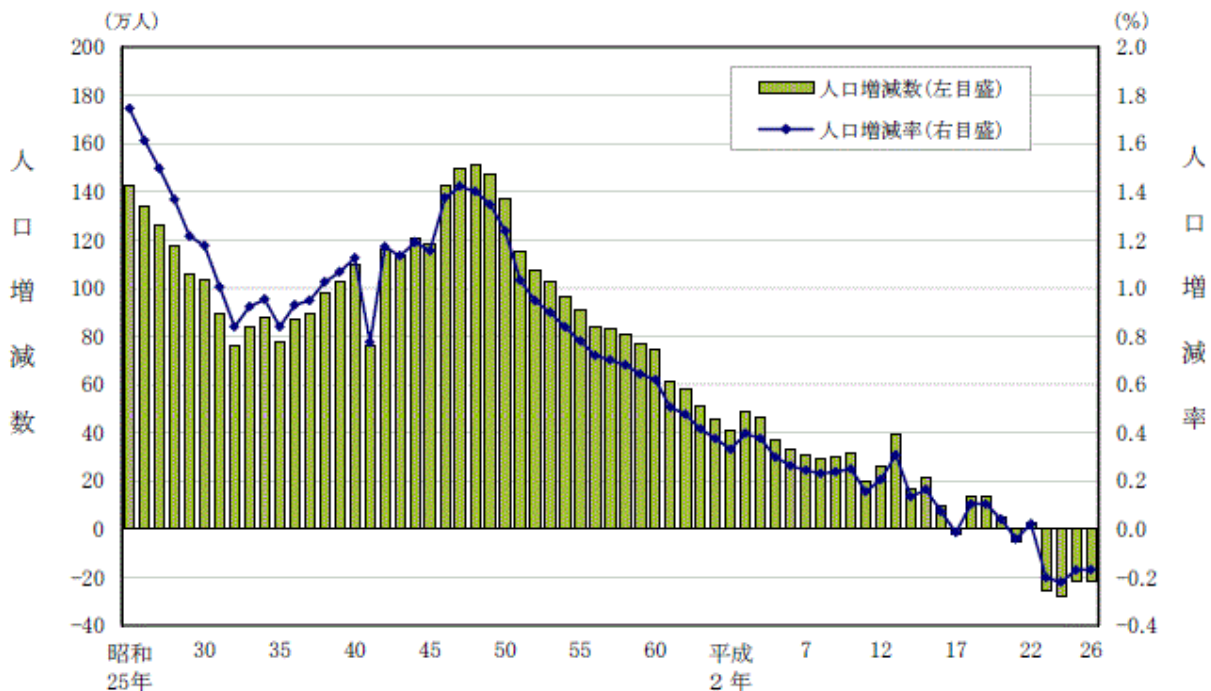
#### 65歳以上人口が年少人口の2倍を超える

年少人口(0~14歳)は1623万3千人で、前年に比べ15万7千人の減少となっています。

生産年齢人口(15~64歳)は7785万人で、前年に比べ116万人の減少となっています。

65歳以上人口は3300万人で、前年に比べ110万2千人の増加となり、初めて年少人口の2倍を超えました。

図1 総人口の人口増減数及び人口増減率の推移(昭和25年~平成26年)



注) 人口増減率は、前年10月から当年9月までの人口増減数を前年人口(期首人口)で除したものの。

#### 8人に1人が75歳以上人口となる

年少人口の割合は12.8%となり、過去最低となっています。

生産年齢人口の割合は61.3%となり、平成4年(69.8%)以降、低下を続けています。

65歳以上人口の割合は26.0%となり、過去最高となっています。

75歳以上人口の割合は12.5%となり、初めて8人に1人が75歳以上人口となっています。

図2 我が国の人口ピラミッド（平成26年10月1日現在）

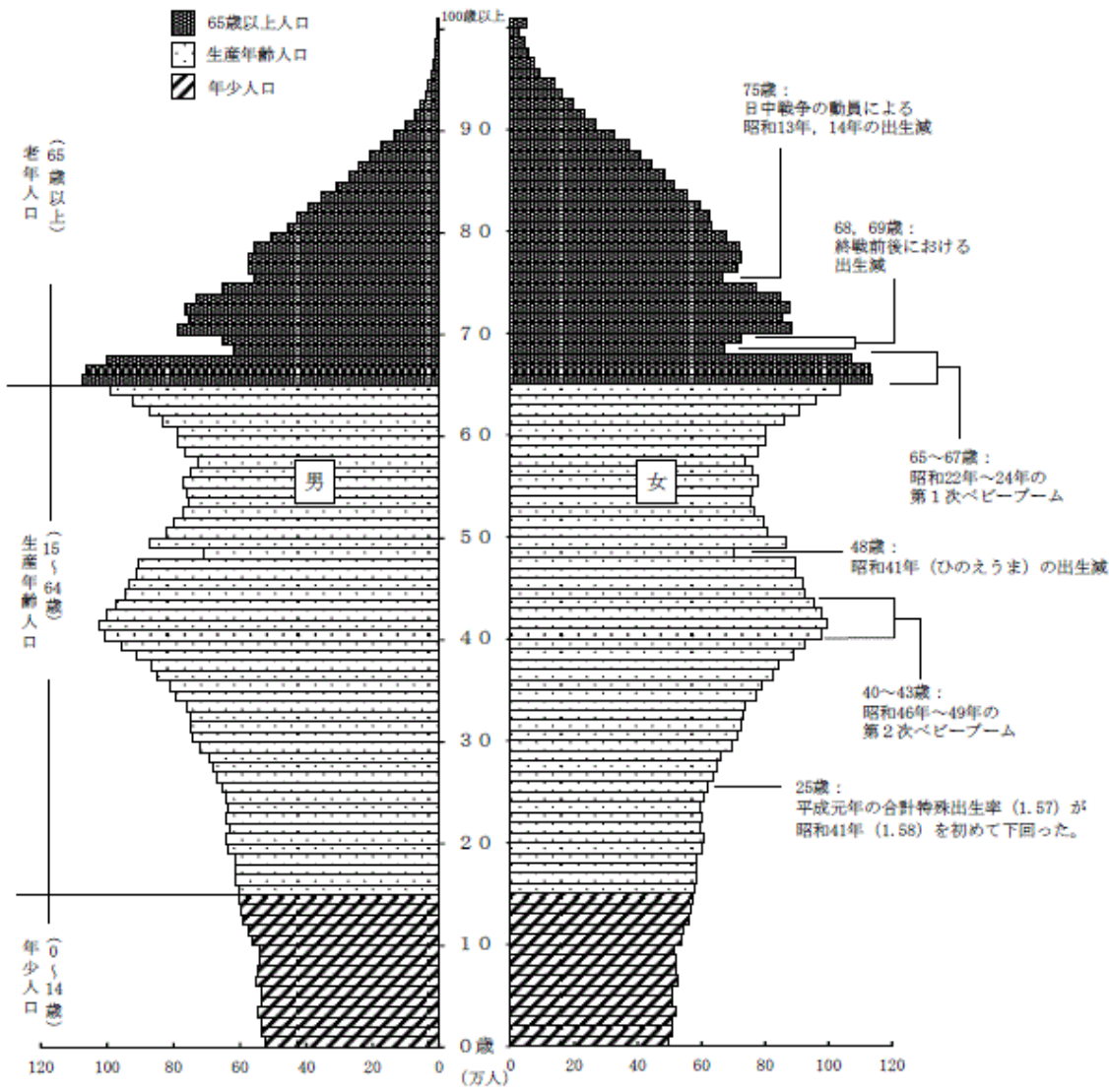
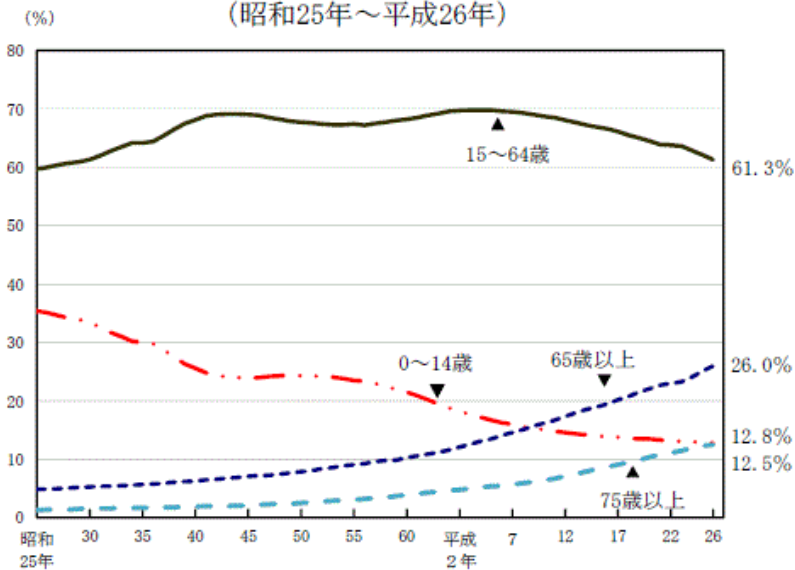
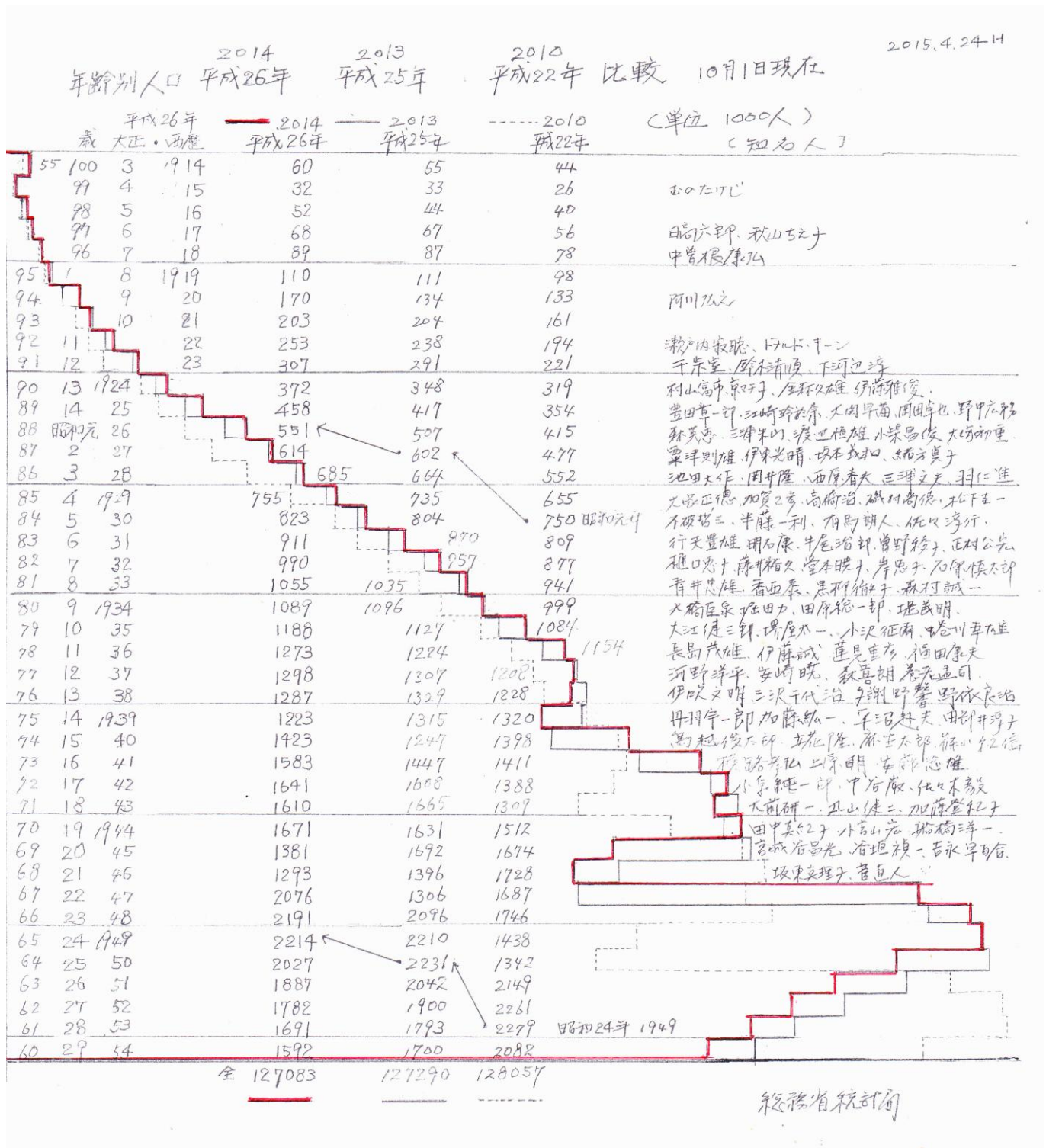


図3 年齢3区分別人口の割合の推移（昭和25年～平成26年）



60歳以上の年齢別人口表 平成22・25・26年比較 10月1日現在 付・知名人



制作 「月刊丈風」 2015・4

昨年、平成26年に77歳の「喜寿」を迎えた昭和12年（1937年生まれ）の方から上は、平穏な時代推移を示す階段状になっています。昭和14年は日中戦争で、昭和20年・21年は太平洋戦争で、男性が出征して出生数が減りました。戦後の昭和22・23・24年が「団塊の世代」で、49年が最多です。3年間の650万人が高齢期（65歳以上）に達しました。右に少数ですが当該年生まれの知名人を100人ばかり記載しましたが、この人たちとともにつくる「円熟」した社会が「日本高齢社会」です。（堀内 記）